

REPORT SHEET OF COIL EDUCATION

担当教員名	佐藤幸代	所属 (学部 学科)	国際センター	
実施クォーター	Q 3			
授業名	南山	国際産官学連携 PBL 科目：日本の食品の海外展開		
	相手大学・機関	Business Japanese		
カテゴリ	PBL			
パートナー教員名	Tomoko Hoogenboom	所属	University of Maryland, Baltimore County (UMBC)	
参加学生数	南山	17	相手大学・機関	7
使用言語	英語 日本語			
使用ツール	Zoom LINE 電子メール Google Drive その他	Google Form		
交流内容	交流は、日米学生の顔合わせと、プロジェクト完遂まで日米学生共同して取り組むために行った。 ①日米合同オンラインセッション クォーターが始まる前に日米両学生がオンラインで合同セッション。日米大学紹介、教員と授業概要の紹介、グループ内の自己紹介、COIL 交流の日程・担当者・方法を決定⇒グーグルドライブに決定事項を記録してもらった。また、同日、JETRO 名古屋の職員から、農林水産物・食品輸出支援の現状と課題をレクチャーいただき、プロジェクト課題を提出していただいた。 ②日米合同オンライン中間発表 各グループの中間地点での発表を合同で行った。ピアレビューはグーグルフォームを用いて行った。 ③COIL 交流 8 回 南山側は大学祭で 1 週休みになるが、UMBC は休みではないので、COIL 交流は実施したので、合計 8 回となった。Google Drive に Communication Log をおき、毎回の交流の内容を記録してもらった。			
評価方法	COIL 交流そのものの評価はおこなっていないが、プロジェクト全体の評価はグーグルフォームを利用した簡易版ルーブリックにて実施。			

コメント

- ・ JETRO 名古屋の職員に依頼し、農林水産物・食品輸出支援の現状と課題をレクチャーいただき、プロジェクト課題を提出していただいた。
- ・ JETRO の職員から提出いただいた課題「Think and present strategies for exporting Japanese food products to the U.S.」について 7 週間（8 週間）かけて日米の学生が共同して取り組んだ。
- ・ 枠組みはデザイン思考を用いた。
- ・ 初回の授業で、日本食の米国展開のために神奈川県からニューヨークに派遣されている職員からの講義を伺い、輸出する際に考慮するポイントを学んだ。
- ・ プロジェクトを日米学生が協働で完成させるにあたり、高度なコミュニケーションスキルが身についたと思われる。